

<p>a 学校教育目標</p>	<p>郷土を愛し、 自らの役割を見つけ、 全力で伸びようとする児童の育成</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着させる学校 ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校</p>
-----------------	--	------------------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	主体的に学ぶ力の育成 基礎学力の定着	○「課題発見・解決学習」の手法を積極的に取り入れ、学ぶ意欲・学び方を育む具体的な支援を行う。 ①国語科を通して複式・少人数学習の授業改善を進める。 ②学習状況を的確に分析し、課題を克服するための具体策を立て、実行・評価を行う。	・学習リーダーの進行による学習の仕方を習得(定着)した児童の割合 ・授業で学んだことを自主学習につなげる児童の割合	児童の80%	65%		81%	B	・2人以上いる学年では、学習リーダーの役を設け、自分たちで授業を進めることができた。 ・学年1人の1・3年生は学習の仕方の定着に至っていない。現在、指導中である。 ・自主学習を進んでする児童の割合は50%であった。動機付けや学習の仕方の指導が足りなかった。	・校内研修で、各教科に応じた学習の進行の仕方を再確認し、確実に定着ができるよう取り組む。校内で統一した取組にする。 ・自主学習の「学習の仕方」について、次の4点を重点に取り組む。 ①児童に目的意識をもたせる ②学習への動機付けを意図的に行う ③よい学習(ノート)を交流させる ④学習例を紹介するなど、やり方や学習内容について指導する	2			・適切に評価されている。 ・授業中、人前で説明することはよい経験になっている。1年生の時から話す経験を積めることはとてもよい。
			①重点課題への取組実施状況(中間) ②標準学力調査における国語科の個別期待値の達成率(最終)	①全学年実施 ②達成児童80%	100%	100%	A	・国語科の、特に「読むこと」単元の指導では、事前につけた力を明確にし、改善を意識しながら、工夫した授業に取り組むことができた。 ・漢字の定着に課題が残った。 ・現在、個の課題に応じた具体策に取り組んでいる。	・漢字の定着に向け、漢字練習のさせ方を改善する他、小テストをより丁寧に実施する。 ・2学期以降、個の課題を克服する具体策をさらに工夫し、確実に実行していく。	2				
豊かな心と健やかな体の育成	自己肯定感の向上 体力づくりの推進	○頑張りや個々のよさを把握し、積極的な肯定的な評価を継続する。 1 体力テストの課題を重点的に取り組む。 2 食育を通して、バランスよく適量食べられる習慣を育む。	・自分のよいところを1つ以上言える児童の割合 ・友達のよいところを指摘できる児童の割合	達成児童100%	100%		100%	A	・自分のよいところは、全員が1つ以上書くことができた。各行事や日々の活動の中で、多くの方からの肯定的な評価や声が自信につながっていると考えられる。 ・帰りの会等で行うふりかえり活動では、全員が友達のよいところを見つけ、互いにかんばりを認め合うことができている。学級や学校によさを見つけ合う雰囲気、風土が育ってきている。	・引き続き、自己肯定感を高めるために、教職員から児童へ積極的な声かけや賞賛を行う。 ・児童のよさみつけの取組を継続する。	2			・適正に評価されている。 ・友達を思いやり、自分の気持ちもしっかり発言できている。 ・豊かな鳥の生活ができる子どもはたくさんいると思う。
			①個別の重点種目で全国平均を超えた児童の割合 ②苦手なももの体のために食べようとする児童の割合	①達成児童80% ②達成児童80%	①80% ②80%	100%	A	①朝の会や帰りの会、体育授業開始時や休憩時間を利用して、体力を高める運動を行った。→10人中8人が、個人の重点種目において全国平均を超えることができた。 ②食事時間の確保と食べられる指導(苦手な食べ物の減らすルールを決め、その範囲内で減らせる)を行った。 →食べることができる児童が増えた。	・体力の向上については、新たに平均を下回った項目を重点課題として再設定し、全国平均値を超えることを目標に体力づくりに取り組ませる。特に、面談により、各自の課題への意識を高め、継続して運動に取り組めるよう支援をする。 ・給食を食べる習慣の育成については、時間の確保と食べられる習慣付けに今後取り組む。また、バランスよく食べる意識について、食育指導を2学期以降に行う。	2				
信頼される学校	郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校 郷土学習の充実	1 英語教育の取組を充実させる。 2 学んだ英語を生かす場を設定する。 1 「総合的な学習の時間」の内容の見直し・充実 2 地域の取組との連携	①英語で話したり聞いたりすることが楽しいと感じている児童の割合 ②外国人と英語で交流する機会の実施回数	①児童の90% ②各学期1回以上	①93.3% ②100%		100%	A	①アンケート結果 ・児童は英語を「話す・聞く」活動に概ね肯定的(「楽しい」「もっと話してみたい」等) ・話すことに抵抗を感じている児童が数名いる→基礎的な表現に慣れ親しませたり、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成したりする取組にやや課題が残った。 ②地域や行政機関と連携して島を訪れる外国人の方との機会を設けた。(1学期2回)	・今後も研究に沿って、学んだ英語に十分に慣れ親しみ、やり取りの幅を広げるために、次の2点に取り組む。 ①授業で「習った表現を使って会話をする場」を多く設ける ②日常の中でALTと会話をする場を多く設定する ・2学期以降の外国人との交流活動では、次の2点に取り組ませ、児童が達成感を味わえるようにする。 ①1学期の活動を児童に振り返らせる ②相手意識と目的意識を明確にする	2			・適切に評価されている。 ・地域の人ともよく話をしたり、外部から来られた人に挨拶をすることもよくできている。 ・地域の人との交流や学校の活動が評価され、島外からの児童が増えていてうれしい。 ・先生方の努力に感謝している。
			①地域の課題を知り、解決に向けての実行へ向かう単元の開発(改善) ②地域住民を巻き込んだ教育活動の数	①各学年1単元以上 ②各学期1回以上	①100% ②100%	100%	A	①全学年実施 ②全学年実施(1回以上) ・施設への訪問 ・取材(インタビュー)活動 ・見学	・「総合的な学習の時間」においては、2学期以降も、次の3点に留意しながら、課題発見解決学習に取り組む。 ①恵まれた地域の教材や人材を生かす ②他の教科や活動でつけた力を生かす ③単元の構想を随時修正・改善する	2				

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。